

石原ケミカル

電子関連、海外で高成長

石原ケミカルは、現在展開する3つの分野で事業を前進させていく。主力の金属表面処理剤などの電子関連分野は海外を中心に成長が続く見通しで、自動車用品分野はエアコン洗浄剤が毎年大きな伸びを示し、主力製品に育ってきた。工業用薬品分野は、土木建築業界の活況や自動車生産の回復で鉄鋼市場での需要が増加。また、昨年竣工した神戸工場では、銅ナノインクをはじめとする金属ナノ材料の事業化を目指す。同社全体の海外売上



時澤 元一社長

……
指すなど、先も見据える。

現在の主力事業は、売上構成比率の6割強を占める金属表面処理剤および機器と電子材料。韓国や台湾などへの輸出が多

高比率は5割だが、大半を同事業が占める。とくにスマートフォン向けの表面処理剤がコア事業として牽引している。直近のIT業界市況は停滞するも、同社では今春以降、再び需要増に転じるとみる。

自動車用化学製品では、洗浄・除菌・抗菌・消臭作用によりエアコン始動時に生じる臭気を抑制するエアコン洗浄剤を、カーディーラーと連携し、入庫時のフィルタ交換とセットで提案

し、奏功している。

事業化を目指す金属ナノ材料の開発は、15億円を投じて昨年4月に竣工した神戸工場が拠点となる。開発・製造拠点の位置づけで、開発スピードを重視し、立地は本社研究室と距離が近い神戸ハイテクパークを選定。遠方のユーザーとのアクセスが良好な点も決め手になったという。

金属ナノ材料の開発加速

現在、プリンテッドエレクトロニクス向け銅ナノインクの開発が先行しており、開発パートナー数も着実に増えている。